

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
  - 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
  - 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
  - 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
  - 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
  - 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
  - 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
  - 項目番号61 ○日常的な外出支援
  - 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
  - 項目番号63 ○電話や手紙の支援
  - 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム ぶなの森

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)  
氏名 菅野 真由美

評価完了日 平成21年 2月 3日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開放的で地域に根付くグループホームを理念の1つにあげ、地域との関係が途絶えることなくその人らしい生活が継続できるよう実践し取り組んでいる。	○  今後も継続していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期会議や日々の業務の中で理念に基づいたサービス提供が実践されているか確認し共有が図れるよう取り組んでいる。また、新人職員採用時には法人及びグループホームの理念を伝え理解してもらっている。	○  職員一人ひとりが理念に基づいた姿勢で関わりが持てるよう今後も努力していく。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には入所契約時に説明している。来訪者へは玄関先に掲示している。また町内総会に出席し、地域住民の方々に理念に基づき地域の中で関わり生活する意義を説明した。地域への広報誌の回覧は行うことが出来なかった。	○  地域の方々に更なる理解を得るために広報誌の回覧・町内会行事への参加・施設行事への招待等を引き続き行っていく。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣者が気軽に立ち寄る事はないが、散歩や畑へ外出した時等挨拶を交わす等の声の掛け合いを大切にしている。しかし、近隣は大病院、賃貸住宅に囲まれており、日中行きかう機会が少ない。	○  気軽に立ち寄れるよう、また日常的付き合いが出来るよう隣近所との関係を深めていく
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域小学生との交流を継続している。入居者様と学校行事に出向いたり、また施設側からも行事に招いている。町内会に加入しており、町内会総会をはじめ清掃活動・芋煮会・ソフトボール大会・盆踊り等の地域活動にも参加し交流を深めている。	○  今後も行事等、地域活動に参加し交流を図っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者様の生活を基盤とし、職員一人ひとりがキャラバンメイトとしての役割を担い、地域高齢者の生活に役立つことがないか検討している。	○	形として残るような実績はないものの、職員一人ひとりが地域に貢献出来る事はないか、役立つ事は何かを考え体制作りにも努めている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を一人一人理解している。昨年度の結果を基にリーダー及び各委員会が中心となり具体的な改善策を追求し取り組んでいる。	○	ケアの向上につなげていくため、常に問題意識を持ちながら改善に向け取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では取り組み状況や今後の予定などを報告し、施設の現状を把握して頂いている。ヒヤリハット、自己・外部評価の結果をお伝えし、いただいた意見を生かせるよう努めている。以前より参加者からの意見を多くいただいている。	○	多くの意見が頂けるよう協力体制を築いていく。
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する福祉フェスティバルに今年も参加、市民の方々にを対象にグループホームについて説明し情報提供をしている。管理者が市のキャラバンメイトに登録しており、依頼があれば出張講座が行える体制が整っている。	○	今後も行政側の依頼には随時協力していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、制度に関する資料が閲覧出来るようにしている。現在制度を必要とする対象者はいないも必要時は活用できるよう支援していく。	○	制度に関する理解が深められるよう順次外部研修への参加を促していく。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	今年も施設内研修の場で学ぶ機会を設け意識向上に努めている。言葉の虐待を中心に取り組み一人ひとりが注意を払いながらケアに努めている。	○	時には配慮のない言葉づかい聞かれるため、引き続きスタッフ同士注意・喚起を行う

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>今後も継続対応していく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>介護サービス相談員の意見を参考に利用者の意見を拾い、サービスの質の向上を目指す。入居者様の言動をより一層観察し、どんな些細な事でも報告書をあげていく。職員間で周知徹底、共有し日々のケアに活かしていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		<p>今後も継続対応していく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>ご家族様からより一層多くの意見や要望が出されるよう信頼関係や雰囲気づくりに努めていく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>今後も継続対応していく</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	<p>入居者様に支障がでないよう、適切な人員配置を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動してきた職員・新人職員には混乱が起きないように生活暦や習慣などの引継ぎを担当者同士で行う一方、他職員も入居者様の直後の精神面の安定が図れるよう支援している。離職者に関しては入居者様の心身状態に応じて説明している。		今後も継続対応していく
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた外部研修に積極的に参加している。施設内研修をほぼ毎月実施し、外部研修発表や勉強会などを行っている。内外研修ともにレポートを提出し自己啓発に努めている。	○	施設内研修を充実し、知識・技術向上を図ることを職員一人ひとりが認識する。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入しており、外部研修で他事業所の職員と交流を図る機会があり、情報交換を行っている。個々のネットワーク作りができるよう努めている。	○	職員一人ひとりが研修に参加することの目的を認識しネットワークを広げられるよう努力する。他施設見学を取り入れた研修会を企画し、サービスの質の向上を図っていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全体の忘年会を実施し職員の親睦を通してストレス解消の場をもちたり、面談を設け話を聞く機会を作っている。永年勤続者には、リフレッシュを兼ねた研修旅行も計画されている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は毎週施設に訪れ、また管理者を通じて職員の状態を把握している。外部研修への参加を促し、各自が向上できるよう配慮している。また指導や助言もあり職員の不安の解消・知識向上につながっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において教え教えられる関係作りが出来る。日々の会話、作業を通し同じ時間を過ごすことで、感情を共にし、その中で喜怒哀楽や言葉にできない思いを感じとれるように努めている。	○ 今後とも継続し支えあう関係作りを築く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフ側の視点だけでなく家族の声も吸い上げながらケアプラン作成を行っている。面会時には状況報告を必ず行い、また必要時やご本人からの要望時には電話連絡をし、協同し支えあえるよう取り組んでいる。	○	今後もご本人主体という観点から外れずご家族様と共に支え合う関係を継続していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族様の関係に配慮しながら両者の思いを受け止め相互理解に努めている。また、ご本人とご家族様が関われる機会が増えるようご家族様が気軽に参加できる行事を設けている。	○	行事などに出来る限り参加していただけるよう働きかけを継続。外出、外泊の機会が増えるよう支援していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人、友人が面会に訪れている。外出の際には馴染みや思い出の場所に訪れている。		継続し対応していく。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	意図的に場面設定をしながら交流援助を行っている。最近では入居者様同士で助け合っている場面が見受けられている。状況を見極めながら見守りや手助けを行っている。		継続し対応していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、関わりが必要なご家族様に対して、いつでも相談可能な体制にあることを伝えている。		継続し対応していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様本位の日常生活は送れている。意向や思いは変動するため、些細な変化や言動を見逃さず心身状況を把握し意向に沿えるよう努めている。	○ 今後もご本人らしさが発揮できるよう、希望や意向の把握に努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家具等も馴染みの物を居室に置いたり、行事や日々の手伝い等で昔の様子が伺えるよう働きかけている。生活歴の情報収集(面会時等)も継続している。	今後も継続していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態や日々の生活は記録を通して些細な変化や行動・言動等把握出来るように記し、総合的な把握に努めるため、日々の申し送りを充実させている。今年より配属されたユニットだけでなく双方の状況の把握に努めている。	○ 目に見えている状態だけでなく、言動の原因や背景を追求しながら、またスタッフ間で連携しながら日々のケアに努めていく。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の言動からその人の思いを組み取るため、センター方式を用いアセスメント・カンファレンス・モニタリングを行っている。また、センター方式の研修会にも参加し施設内研修で報告・勉強会を行った。スタッフ側からの視点だけでなくご家族様や主治医の意見も取り入れながら介護計画を作成している。	○ 職員個々が認知症の方への理解に更に深め、アイデアを持ち寄ることでチーム力を発揮し、入居者様の視点に立った介護計画作りに取り組んでいく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほか、変化に応じながら情報収集し、ご本人・ご家族様・他関係者との話し合いの場を設けている。現状に即したケア計画を作成し、ご本人・ご家族様が安心して生活を送れるよう努めている。	○ 継続し、ご本人本位の計画作成が行えるよう努めていく。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子が綴られている個人ファイルを活用。スタッフ全員で目を通し、入居者様の状態変化等の把握に努めている。情報を共用し記録の重要性をスタッフ全員で認識し、ケアプランに反映させている。	○	引き続き記録を中心にセンター方式を用いて介護計画の見直しに活かしていく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今年度も地区の小学生との交流が図ることができ、発表会等にも招かれ参加した。地域の行事へも昨年以上に参加できた。	○	現状を継続し、更にボランティアの協力が得られるよう働きかけをしていく。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の希望や状況に応じて訪問理美容サービスや介護タクシーの手配などの支援をしている。自具が必要な時には福祉用具専門員に相談し意見を取り入れている。		今後も継続し対応していく。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護や後見人制度を必要とする人はいないが、状況に応じた対応がとれるよう地域包括支援センターと連携を図っている。	○	地域の認知症高齢者の支援、具体策を検討し協働しながら地域住民への理解と協力が得られる体制作りに取り組んでいく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>今後も継続していく。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>今後も継続していく。</p>
45			
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>今後も継続していく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>今後も継続していく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>今後も継続していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事例はないが、そのような状態に置かれた場合は適宜対応できる体制をとっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉による虐待についての勉強会も行い、更に配慮しながら声かけや対応に努めている。時折配慮に欠ける声かけ等をしてしまっている。記録に関しての管理・保管はできている。	○	常に相手の立場になって声かけや対応ができるように意識を高めていく。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の状態に応じた説明や働きかけを行っており、複数の選択肢を設け自己決定できるよう支援している。		今後も継続していく。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にご本人のペースを優先に考えできるだけ希望に応じて生活できるよう支援している。		今後も継続していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	入浴準備時、更衣時できるだけ衣類はご本人に選択して頂けるよう働きかけている。ご本人が望む髪型やおしゃれを楽しんで頂いている。		今後も継続していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を把握した上で栄養面も考慮し、食事の提供を行っている。旬を感じて頂ける様に野菜を栽培・収穫しその日のメニューに取り入れている。食事準備から片付けまで一緒に行っている。また食事評価をしメニュー作りに活かしている。	○	外食の機会をもっと増やしていく。
55 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員と買い物に行き好きな物を購入したり、ご家族が持参された好物を楽しんで頂いている。喫煙、飲酒も可能な環境である。		今後も継続対応していく
56 ○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者様の身体状況や排泄パターン等を把握し、それに応じた排泄方法で援助している。排泄の声かけや排泄後の確認等も自尊心を傷つけることのないようさりげなく行っている。主治医・看護師と連携を図り、排便コントロールを行っている。		今後も継続対応していく
57 ○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様の希望に応じた入浴を実施している。状況に応じて夜間浴も行っている。安全な入浴が出来るよう、個々に応じた入浴方法で援助している。		今後も継続対応していく
58 ○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様の心身状態や生活習慣に応じて休息や安眠が出来るよう環境整備を行っている。また、眠れない入居者様へは飲み物を提供しながら傾聴し、安心感を持って頂けるよう努めている。		今後も継続対応していく
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	入居者様がそれぞれの役割を個々に感じとっており、責任を持って行っている。入居者様の心身状態を見極めながら、張り合いのある生活が送れるよう援助している。入居者様個々に応じた気晴らし援助を行っている。		今後も継続対応していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	お小遣いは基本的に施設側で管理しているが、買い物時はご本人にお金を渡し支払いできるように援助している。いつでも買い物できることは入居者様に伝えている。ご家族様承知の上でお金を所持されている方もいるが日常的には使用していない。	○	状態を見極めながら支援して行きたい。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	買い物や散歩など気分転換も兼ね日常的に外出援助を行っている。希望により定期的な外出（買い物、外食）も行っている。	○	今後も外出の機会を増やし、入居者様の心身の活性化を図り、また地域とも触れ合っていけるよう援助して行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）	花見・紅葉狩り・温泉・ピクニック・ドライブ等、外出行事も取り入れている。ご家族様へ協力を依頼し参加して頂いている。	○	ご家族様との外出や外泊がもっと増やせるよう連携を図っていく。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	入居者様の状態に応じてご自宅の電話番号がわかるように明記しておいたり、希望時には電話のやり取りが出来るよう支援している。暑中見舞いや年賀状など一緒に作成し、手紙のやりとりも支援している。		今後も継続対応していく
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	訪問者と入居者様がゆったりと過ごせるような雰囲気作りに努めている。ご家族が気軽にいつでも宿泊できる体制を整えている。		今後も継続対応していく
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修参加後、研修報告にて勉強会を二度実施している。全職員が禁止行為などを理解し拘束のないケアを提供している。中でも、言葉による精神的な拘束に注意し一人ひとりが考え実践している。		今後も継続対応していく


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>今後も継続対応していく</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	<p>プライバシーに配慮しながら所在や様子確認し安全に過ごせるよう努めていく。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>今後も継続対応していく</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>今後も継続対応していく</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>施設内研修で心肺蘇生法の実技を実施する。急変時マニュアルをNS・委員会が中心となり作成し、全スタッフで学んでいく。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>定期的に避難訓練・消防訓練を継続し行っていく。また緊急時連絡訓練を取り入れて行きたい。災害時対策の一つとして、限られた食材と物品での調理実習を行って行きたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々の身体レベル・認知レベル等を把握し起こりえるリスクについてご家族様に説明している。家族と共同しながら事故を未然に防げるよう対応している。		今後も継続対応していく
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者様一人ひとりの体調の変化に留意している。日々の状況を確認し、状態変化時は看護師・主治医に連絡し指示を仰いでいる。またスタッフ間でも情報を共有するように努めている。	○	継続し、主治医・看護師との連携を図っていく。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルより服薬内容や副作用について全職員が把握している。服薬時本人に手渡す際は、確実に内服するまで確認するようにしている。薬の処方や量の変更・臨時薬が追加された際は申し送りを徹底し、症状変化の確認に努めている。	○	継続し対応していく。服薬ミスが発生しないようルールを守っていく。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便困難者には看護師によりその時の状態に合わせた下剤の使用量・頻度の調整が行なわれている。予防策として、朝・夕の体操の他、日中の活動を多く取り入れられている。又食事内容（食物繊維の多いもの・乳製品を取り入れ）を考え、適度な水分補給を促し、便秘による不快感の軽減に努めている。		今後も継続していく。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きを徹底している。また習慣となり自ら行う入居者様もいる。ご本人任せにせず能力に応じた支援をしている。		今後も継続していく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の把握を徹底している。個々の状態に合わせ好みの飲み物にトロミをつける等の工夫をしている。給食評価表を記入し入居者様の嗜好を把握しており、また栄養バランスを考慮した献立を立てている。施設内研修に外部講師を招き高齢者の栄養について学んだ。	○	個々の状態に応じた支援を継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	食前後、外出後、排泄後手洗い・うがいの声かけを実施している。食器・布巾・台拭き・まな板等は毎日消毒をしている。手すり・ドアノブ・杖・シルバーカー等手が触れる部分の消毒も毎日行なっている。また施設内研修において感染症の勉強会を行い予防に努めている。	○	継続し今後も施設内研修で感染症に対する知識を深め、予防に努めていく。
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	給食委員を中心に台所に関する管理を行っている。調理担当者や夜勤者が冷蔵庫・食品庫の整理、確認をし新鮮な食材が提供できるよう努めている。		今後も継続対応していく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	二階入口にマスコットが出迎えており入居者様やご家族様の方に喜ばれている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・居室の明るさは、その都度照明やカーテンにてこまめに職員や入居者様が調整している。また入居者様が不快に感じないようなTVや音楽の音量、その方に合った声の大きさ等にも注意をしている。花を飾ったり、入居者様と一緒に季節に応じた壁画を作成し四季を感じていただけるよう工夫している。	○	今後も継続しまた家庭的な雰囲気作りに取り組んでいきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて自由に席を移られたり、ソファにて腰掛けられたり横になったりと、入居者様のその時の気分によって自由に過ごして頂けるよう配慮している。		今後も継続対応していく。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持参されたり、写真や絵を飾ったりと個々の好み のものが居室にある。また各個人の趣味の作品や誕生会や敬老会の思い出の品や写真を壁に展示し、ほっとして頂けるような空間作りを取り組んでいる。		今後も継続対応していく。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気 のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日3回は温度・湿度チェックし、居室においてはご本人の状態に合わせて空調、寝具、衣類などの調整を行っている。排泄用具などは早急に処理するようにしている。換気にも気を配り空気の入れ替えを行っている。		今後も継続対応していく。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	椅子・テーブルの高さは一般的のものとなっているため、座布団やクッションなどを活用している。作業時には可動式のテーブルを使用し、自立に向けた支援を心がけている。	○	安全に配慮しながら、個々にあった生活環境を整えていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口に花や表札を飾ったり、手すりに目印をつけるなどの工夫をし混乱が回避できるよう努めている。また場所がわからなくなる様子が見受けられた際はその方にあつた声かけ誘導をしている。	○	その時その時の状況に応じた場面設定をしていく。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室フラワーボックスに花を植え、季節感を感じ取っていただいている。花の管理が楽しみになっている入居者様もおり、毎日の水やりが日課となっている。また近くに畑があり散歩がてらに出掛けたり畑の手入れを楽しんでいる。		今後も継続対応していく。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他 ( )
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他 ( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他 ( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他 ( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ( )
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ( )

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○入居者様の笑顔を大切に、時には家族となり、友達になる事で気兼ねなく何でも話して頂ける様な関係作りに心がけ、また「ぶなの森」の由来のように「暖かく包み込む」ケアを実践している。

○買い物、調理、片付けと全て入居者様と共に行い、また一緒に食事をする事で一番の楽しみである「食」に対する関心が常に持ち続けられるよう働きかけている。

○身体機能の低下を防ぐ為、2/日の体操・歩行訓練を取り入れている。

○入居者様の望む暮らしに近づけるようスタッフ一人ひとりが自己研鑽し、認知症の理解を深めている。